

## 中華民国老人口腔医学会(TAGD)第5回国際学術検討会・総会に参加して

国際渉外委員会委員 原田和昭

2017年10月28～29日に、中華民国老人口腔医学会(TAGD)第5回国際学術検討会・総会および専門医認定試験が、台湾台北市福華大飯店で開催されました。今回は日本、アメリカ、台湾の3カ国から参加者があり、英語を共通語として、高齢者の系統疾患と口腔保健を考慮した歯科補綴治療のまとめがメインテーマでした。初日に林立民理事長より開催の趣旨が述べられ、特別講演者の櫻井 薫理事長やアメリカの学会長が紹介されま

した。また、今回の開催を通して、姉妹提携を交わして以来の実質的な交流ができたことがたいへん有意義であると述べられました。

初日に櫻井 薫理事長は、日本の高齢者の口腔事情を紹介され、口腔機能低下症を中心にその兆候、検査の手順、対応策などを解説し、また日本老年歯科医学会会員数の増加状況も紹介されました。台湾厚労省の歯科医業行政のトップである張雍敏心理・口腔健康副局長から、日本

における口腔機能低下症の保険適用の可能性についての質問がありました。次に、アメリカ Special Care Dentistry Associationの前会長 Prof. Miriam R. Robbinsが有病高齢者の診療指針について講演されました。続いて、国立陽明大学の李韻揚教授が2017年6月より台湾で実施している介護保険の歯科との関わりについて講演され、金惠民栄養士学会会長が系統疾患を有する高齢者の栄養と健康について講演されました。

2日目は、各分野の専門家による異なる立場からの高齢者の補綴治療についての講演がありました。まず高齢者の義歯が摂食嚥下にどのような影響を与えるかについて筆者が講演しました。続いて、漢方医の立場からみた高齢者の全身疾患と口腔保健との関係について(許中華教授)、台湾健康保険制度における高齢者の歯科保険請求の実例について(許世明医師)、アメリカと台湾で経験した高齢者義歯製作内容の比較検討について(王本華医師)などの報告がありました。再びRobbins教授が、高齢者の多剤服用が健康に与える影響についての講演をされ、インプラント治療における咬合理論とインプラント体の応力分布に関する解説(周肇茂教授)、インプラント治療の生理と審美についての考え方(陳仲庚医師)などの講

演がありました。

2日間の参加者は約40名でした。質疑応答の時間では、座長の鄧延通副理事長が流暢な英語を駆使し、ときに聴講者にわかりやすく中国語で解説することで、参加者からはたいへん好評でした。



左：記念品贈呈、林立民理事長と櫻井 薫理事長  
右：懇親会写真、前列左側から櫻井理事長、林TAGD理事長、Robbins SCDA前会長、後列左側から李理事、陳医師、陳理事(原田和昭)、鄧副理事長、劉事務局長